

尾瀬入山者 6割減

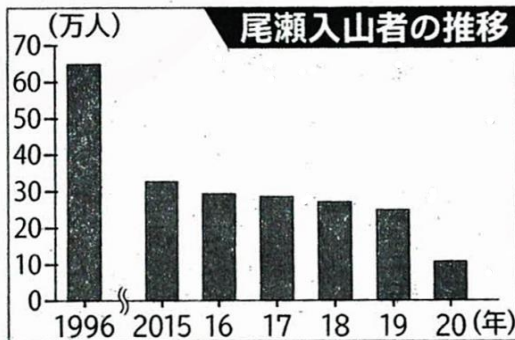
昨年 コロナで最少10万6900人

21.2.19-① 上毛新聞

群馬など4県にまたがる尾瀬国立公園の2020年5〜10月の入山者は前年同期より6割近く少ない約10万6900人で、記録がある1989年以降で最少となったことが18日、環境省

のまとめで分かった。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛の影響で、記録的な落ち込みとなった。尾瀬は全国的な知名度があるものの、訪れる人はコロナ禍の前から減少傾向にあり、新たなファンをいかに獲得するかが課題となっている。

同省によると、主要な入山口8カ所に赤外線によるカウンターを設置して集計した。コロナ禍の影響で入



山口の開通が遅れたほか、営業を見送る山小屋もあった。例年はミズバショウが見頃となる6月の入山者が最も多いが、2020年は4千人余りとどまった。尾瀬への入山者数のピークは1996年の64万7500人。その後、次第に減少し、東日本大震災があった2011年に30万人を割り込んだ。集計方法の見直しがあり単純比較はできないが、レジャーの多様化に加え、近年は尾瀬を繰り返し訪れていたファンの高齢化が進み、人気に陰りが出ているとみられている。過

去最少となるのは3年連続。
同省関東地方環境事務所は「入山者の数を単純に増やすのではなく、訪れた人の満足度をいかに高めるかという視点が大切だ」と指摘。尾瀬ならではの体験を提供し、リピーターを増やしたいとしている。